

平成29年度中西別幼稚園 保護者評価の結果

各保護者に4段階での評定をお願いし、13家庭中12家庭より回収した結果です

区分	評価の内容	H26	H27	H28	H29
1 環境	① 園の施設や設備を有効に利用するため、園の内外の環境整備や美化に努めていると思いますか	3.77	3.38	3.67	3.82
	② 自然環境や飼育・栽培等が活かされ、豊かな体験を生み出す活動になっていると思いますか	3.95	3.86	3.93	4.00
	③ 園全体に、子どもの活動や季節にあわせた環境が工夫・改善されている	3.95	3.81	3.93	3.91
2 子ども	④ おさんは、幼稚園に喜んで通っており、総じて、楽しい様子が感じられますか	3.77	3.81	3.87	3.82
	⑤ 挨拶や返事の指導について、幼稚園での指導は十分に行われていると感じますか		3.57	3.53	3.73
3 教職員	⑥ 教職員は、子どもに寄り添いながら熱心に保育にあたっていると感じられますか	3.86	3.90	3.93	3.91
	⑦ 教職員は、子どもの心身の発達や悩みなどの相談に気楽に応じ、誠意が感じられる	3.86	3.71	3.87	3.91
	⑧ 教職員は、一致した方針の下、協力して運営や保育にあたっているように思えますか	3.91	3.57	3.67	3.82
4 連携	⑨ 保護者やPTAとの連携が積極的で適切に行われていると思いますか	3.86	3.52	3.73	3.82
	⑩ 小学校や中学校、地域の子育て活動との連携が図られ、開かれた園の姿勢があると感じますか	3.95	3.71	3.71	3.82
5 教育活動の姿勢	⑪ 子どもの様子が園だよりやブログ、学級通信などで知らされ、教育方針がわかりやすく伝わっていると思いますか	4.00	3.90	3.93	3.91
	⑫ 子どもの発達や安全のために、よりよい習慣や態度を養おうとしている姿勢を感じますか	3.91	3.90	3.60	3.82
	⑬ 子どもに命の大切さや社会のルール、思いやりの心等を育てようとしていると感じますか	3.82	3.67	3.67	3.82
	⑭ 子どもが自分自身で考え、行動できる子に育てようとしていると感じますか	3.73	3.62	3.73	3.92

3.87 3.71 3.77 3.86

自由記述

・親子行事などではなくても、内容や時間などを詳しく連絡してほしいです。(クラス便りなど)初めての事なので、服装などがわからないことがあるので。
 ・いつも子供たちに寄り添い、楽しく過ごしている様子を見て感謝の気持ちでいっぱいです。ブログや学級通信、飼育、野菜作りなど地域ならではのことに力を入れてくれて頼もしいかぎりです。地域行事も多いですがこども園になっても変わらないので本当にありがたいです。
 ・園のブログ、他の園にはないので、別海町内のお友達のお母さん方から大変びっくり、いいなあ〜！と言われます。園長先生、お忙しいと思いますがこれからも続けてください。

・全体的にはすべての項目で3.5以上という高い評価をいただいています。年々わずかですが平均評価が上がっています。その中で、今後に向けて

- ①環境については、環境整備や動物小屋の清掃の強化と、町教委に引き続いて教室の増築や幼稚園の建て替えについて要望していきます。
- ②子供についての項目では、園児は楽しく通園しているが、挨拶や返事の指導については、保護者評価が向上しているので、今後も力を入れていきます。
- ③教職員については、保護者と先生との関係性や、一致した方針の下での指導を継続できるように、より意識して取り組んでいきます。
- ④連携についての項目でも、評価が上がっています。コミュニティスクールの取り組みと連動して、より一層の幼小中と地域との連携に取り組んでいく。
- ⑤教育活動の姿勢の項目でも、全般的に評価が向上しているので、組織的・継続的な援助を継続していきます。

自ら考え、チャレンジする中西の子



学力	将来の夢に向かって主体的に学び、確かな学力を身に付けた子ども
体力	生涯スポーツを楽しむ姿勢と基礎体力、心のたくましさを身に付けた子ども
生活力	思いやりの心や進んで働く態度を育て、見通しをもって生活できる子ども

自己の夢・将来

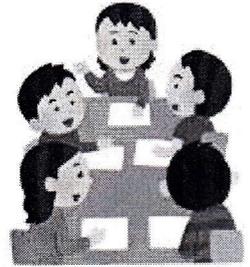
夢をはぐくみ元気なまち中西別

1 子どもの成長をつなぐ幼小中の連携

幼稚園・小学校・中学校の経営方針や教育活動は、子どもの発達の段階に合わせて作成しているため、情報の共有を図り、滑らかで効果的な教育を行うためにも日常的な連携は不可欠なものである。

そこで、今年度行っている管理職による打合せに加え、幼稚園や小・中学校のチーフによる協議会も開催し、日常の教育活動の交流も行う。

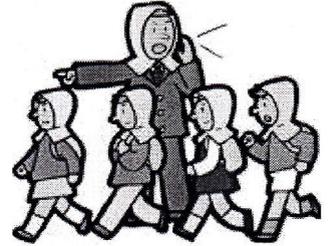
また、中西別学校区の子どもが健やかに成長するよう幼小中の職員が集まって子どもの学力や体力の向上、授業中の学習規律、基本的生活習慣の確立、教育環境の整備及び支援について話し合う機会を設ける。



2 南海トラフなど地震による災害対応

小規模地区におけるコンパクトな家庭数を活用した災害時のスムーズな子どもの引渡しを行うためのシステム作りと合同避難訓練は不可欠である。

そこで、過去にも実施しているが、3回行う避難訓練のうち1回を合同開催とし、幼稚園・小学校から中学校に避難してきた子どもを地区ごと、家庭数で引渡し訓練を行う。



3 現代っ子に足りない体験活動を補う

「イエローハウス・スクール（仮）」

以前は家庭・地域で体験できた魚釣りや釜飯、ものづくりなどの体験は、生活が様変わりする中で廃れてきた活動である。

そこで、CS推進委員会が中心となって長期休業中に子ども達を集めて、体験活動を行う。場所は推進委員長の自宅横にあるイエローハウスで、体験活動だけでなく、宿泊を伴う活動も行う。

中西別学校区の子どもに必要な体験活動を推進委員会で協議・抽出し、年間計画を立て、季節に応じた活動を展開する。



4 学校評価の項目の統一

育てたい子ども像が統一され、15歳までに育てたい力を検証するコミュニティ・スクールにおいては、評価及び改善に活用する学校評価の項目を揃える必要がある。

そこで、平成30年度中に評価項目検討会議を開催し、観点の整理と発達の段階に応じた項目を検討し、合同学校評価を平成31年度から実施する。

